

医療安全対策委員会 施設見学

ANAグループ安全教育センター／ANA Safety Education Center(ASEC)

令和4(2022)年 10月20日神奈川県看護協会 医療安全対策委員会メンバーが、ANA 安全教育センター(ASEC)を見学しました。

【ANA安全教育センター ANA Safety Education Center(ASEC)】

ASECは、ANAグループ全役職員の「安全の学び舎」で、「過去の事故を風化させない施設が必要」との考え方に基づき 2007年に創設され、現在では人材育成の拠点としてANAグループ全職員が「安全」に向き合う学びの施設として利用されています。

創設時の思いを引き継ぎながら「事故と向き合い」「心と向き合い」「仲間と向き合う」という3つのコンセプトのもと、受講者が主体的に参加できる安全教育を通じ、自らの職場で安全行動の体現につながるよう体制構築されています。



ASECの様子

【ASECは2つのフロアで構成】

●フロア1

「継想シアター」ではグループ最大事故「雫石衝突事故の事故機体」を展示、事故当時救助に当たった地域の方や乗客のご家族、職員が事故の衝撃や悲惨さを話す映像が上映されていました。他の航空事故の写真も展示され、事故の疑似体験につながる心に残る機会となりました。

●フロア2

「誓いの空 アクティブラウンジ」は、エラー体験やワークショップを通じ、仲間と新たな気づきを共有したり、安全行動が体現できる空間となっていました。印象に残ったのは、フロアに事故を経験した先輩たちの想いと向き合い、受講者一人ひとりの安全行動宣言を表示する「継承の柱」が配置され、そこに受講者の新たな安全への決意が刻まれていることでした。

ASECでのさまざまな学習・体験が、安全への想いを新たにさせ、行動化に結び付ける機会となっていることを感じました。



雫石衝突事故の事故機体の展示



安全の柱
(安全行動宣言がデジタル表示されている)

【懇談会で意見交換】

見学後、医療安全対策委員会と ANA 整備センター、安全教育センターの方々との意見交換の機会を頂きました。

「安全理念が社員一人ひとりの行動の拠り所になっている」「全ての職場で安全が最優先」とのお話から、乗客と患者さんの違いはあるものの、医療現場の「安全管理」との共通点が多いことに改めて驚かされました。また、職員間の権威勾配や若手・中堅・ベテランへの教育支援、マニュアル化や準備、整理整頓の重要性、報告等など、安全活動の障害となる同じような課題を持つことが理解できました。

「安全は経営の基盤、社会への責務」という話からは医療事故が起こったときの経済的、身体的、精神的ダメージが想起され、命を預かる職種として安全文化を醸成することの大切さを改めて痛感しました。

航空機を利用すると、毎回客室乗務員がドア開閉時に指差し確認をしていることを目にしていたこともあり、安全確認が日々実践される背景に、このような学びの機会があることに納得した思いがありました。



ANA 整備センター、安全教育センターの
みなさまとの集合写真

航空界由来の CRM(Crew Resource Management)訓練や、5S 活動を取り入れている施設も多いと思います。他業種の好取り組みや研修など、医療と異なる職種の活動を、医療安全活動に活かせることが他にもあるであろうことを考えながら、安全管理の重要性を再確認し見学を終えました。

※ASEC ホームページ: <https://www.ana.co.jp/group/safe/culture/asec/>

危機管理課 加藤 節子